

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は108～109円台でのみみ合いか

[3月29日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		3月22日～3月26日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	108.79	109.31(26)	108.41(23)	109.25	+0.37
ユーロ・ドル	1.1879	1.1947(22)	1.1762(25)	1.1782	-0.0122
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	29,176.70	-615.35		日本10年債利回り	0.083 -0.030
ダウ平均株価	32,619.48	-8.49		米10年債利回り	1.633 -0.088

<来週の主要経済統計等>

30日 日本2月有効求人倍率、日本2月雇用統計

日本2月小売業販売額

スイス3月KOF先行指数

独3月消費者物価指数

米1月住宅価格指数、米1月S&Pケースシャー住宅価格指数

米3月消費者信頼感指数(コンファレンスボード)

31日 日本2月鉱工業生産指数速報値

豪2月住宅建設許可件数

中国3月製造業購買担当景気指数(PMI)

英第4四半期国内総生産(GDP)確報値

独3月雇用統計

ユーロ圏3月消費者物価指数速報値

米3月ADP雇用統計

カナダ2月鉱工業製品価格

米3月シカゴ購買部協会景気指数

米2月中古住宅販売成約指数

1日 日銀短観(3月調査)

豪2月貿易収支、豪2月小売売上高

中国3月財新製造業購買担当景気指数(PMI)

スイス3月消費者物価指数、スイス2月小売売上高

米新規失業保険申請件数

米2月建設支出

米3月ISM製造業景況指数

2日 米3月雇用統計

【前回のレビュー】今後も米長期金利はじり高傾向で推移するとみられる。日本の長期金利も追隨して上昇する可能性はあるものの、米長期金利の上昇ペースの方が速いとみられ、円に比べてドルの方が相対的に強い動きが見込まれ、ドル円は108～109円台を中心に堅調な推移になるとした。

【ドル円は底堅い推移が継続】

依然として、米長期金利の動向が注目されている。米10年債利回りは18日に一時1.75%台まで上昇した後は1.60%前後まで低下するなど、やや落ち着きを見せている。ただ、米国の景気回復への期待感は根強く、インフレ期待も高まりつつあり、米長期金利上昇への警戒感はくすぶっている。ハイテク株中心のナスダックは不安定な動きを見せており、株価の先行きに不安な影を落としている。

そうした中、23日に米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエルFRB議長は議会証言で、「FRBは物価安定の責務に強くコミット」、「インフレの影響は大きくもなく、持続もしない」、「もし、懸念があれば、FRBは対処手段を持っている」、「資産購入ペース縮小の開始はかなり前に知らせる」、「ワクチン接種が雇用にとって最も重要」などと述べた。

パウエル議長は24日の議会証言でも「利回り上昇はワクチン接種や成長期待を反映しており、利回り上昇は秩序あるプロセスにある」と述べた。引き続き現状の利回り上昇を容認する発言を繰り返しており、市場への影響は限定的となった。

エイレン財務長官は23日の公聴会で、「税制改革の検証を見込む」、「法人税の物価や消費への影響は不透明」、「長期の経済プランには歳入増が含まれるであろう」などと述べ、さらには将来的に法人税を引き上げる考えを支持する見解を示した。

米10年債利回りは1.60～1.70%台での推移が続いており、日米の株価は高値圏からの調整の動きを見せている。ドル円は108～109円台でのみ合いとなっており、109円台に乗せると伸び悩みを見せる傾向がある。

ドル円は米長期金利、日米の株価、米経済指標、新型コロナウイルスの感染再拡大の報道などに左右される展開となりそうだ。ただ、大きな崩れはないとみられ、さらに109円を超えて大きく上値を伸ばす動きは見込みにくいと見られ、引き続き108～109円台での振幅が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、108.00～110.25円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、30日に日本2月有効求人倍率、日本2月雇用統計、日本2月小売業販売額、米1月住宅価格指数、米1月S&Pケースシラー住宅価格指数、米3月消費者信頼感指数（コンファレンスボード）、31日に日本2月鉱工業生産指数速報値、米3月ADP雇用統計、米3月シカゴ購買部協会景気指数、米2月中古住宅販売成約指数、1日に日銀短観（3月調査）、米新規失業保険申請件数、米2月建設支出、米3月ISM製造業景況指数、2日に米3月雇用統計などがある。

【ユーロドルは上値の重い動きか】

欧州では新型コロナウイルスの感染再拡大が警戒されている。ドイツでは新型コロナウイルスの感染拡大第3波が警戒される中、ロックダウンを4月18日まで延長すると発表した。フランスでも主要都市で4月18日までのロックダウンが実施される。オランダでも4月20日までロックダウンを延長する。欧州での感染再拡大への警戒感は米国株にも重石となる局面もみられる。

欧州では新型コロナウイルスの感染拡大第3波が警戒されている上、ワクチン接種の遅れなども懸念材料となって、ユーロ売りの動きにつながっている。ユーロドルは1.20ドル接近では上値を抑えられており、1.18ドルを割り込んでいく。

24日に発表されたドイツやユーロ圏の3月の製造業、非製造業PMI速報値はいずれも市場予想を上回ったものの、新型コロナウイルスの感染再拡大への警戒感に押されてユーロドルの上値は重かった。ユーロドルはこの流れを引き継いで、引き続き軟調な推移となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1600～1.1950ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、30日にスイス3月KOF先行指数、独3月消費者物価指数、31日に豪2月住宅建設許可件数、中国3月製造業購買担当景気指数（PMI）、英第4四半期国内総生産（GDP）確報値、独3月雇用統計、ユーロ圏3月消費者物価指数速報値、カナダ2月鉱工業製品価格、1日に豪2月貿易収支、豪2月小売売上高、中国3月財新製造業購買担当景気指数（PMI）、スイス3月消費者物価指数、スイス2月小売売上高などがある。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。